



令和 6 年 5 月 15 日

南相馬市議会議長

会派名 無会派（公明党南相馬市議団）
代表者氏名 志賀 稔宗

調査研究報告書

- 1 期間 6 令和 5 年 8 月 日 (水) ~ 令和 6 年 5 月 10 日 (金)
- 2 参加者 ① 志賀 稔宗 ② _____
③ _____ ④ _____
⑤ _____ ⑥ _____
- 3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

調査研究内容

月日	令和 6 年 5 月 8 日 (水) ~ 令和 6 年 5 月 10 日 (金)
旅行先	京都府 木津川市商工会、精華町役場
調査研究事項	
〔内容〕	
・木津川市商工会 木津川市は平成19年3月1日木津川町・旧加茂町・旧山城町の合併により誕生した。 基本方針としては「学研都市としての特性を生かした産業の活性化、企業誘致・立地による雇用と新業の創出、交流人口(関係人口)の増加、地域住民による地域活性化 観光の展開、子育て支援 NO1 をめざした施策の実施、小さな拠点を生かした離れ居が活躍できる個性と魅力あふれる地域コミュニティの充実 地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化、まちづくりに取りくみ人材の支援、創出を推進してきた。 商工会としては経営発達支援計画にのっとり積極推進中である。 1. 小規模事業者の自主的な経営力強化による事業計画策定支援 2. 創業育成支援と事業承継支援 3. DX化推進による競争優位性の確立と人材定着の支援 4. 様々な企業間連携やマッチングの機会を創出し面的支援を行う 学研都市の特性を生かし積極的に事業展開している。	
・学研都市 精華町 京都府の南西端、一部奈良県と境界を接する。人口約36,200人の町全体がけいはんな学研都市の区域と位置づけられ、将来的に学研都市をめざすには考えられない状況である。 学研都市のスタートである昭和60年代当時1万人台であった町の人口はその後の整備が進捗するにつれ増加の一途をたどり、平成13年に13万人を超え、平成17年に15万5千人を突破。将来人口を令和14年39,000人を設定している。大阪(関西)万博と連携して実施する「けいはんな万博」を「2025年大阪関西万博」に位置づけ取り組んでいる。つくば科学万博を契機につくばの波及が広く浸透し都府県を確固たるものにしたこと、けいはんなにおいても大阪万博と緊密に連携し学研都市を世界に知ってもらうこととしている。	

南相馬は東北の一大研究産業都市をめざしており、認知度向上の努力が重要と確信を深めた。